

平成 19年 2月

倉井 淳 学位論文審査要旨

主 査 井 藤 久 雄
副主査 寺 川 直 樹
同 清 水 英 治

主論文

Antibody-dependent cellular cytotoxicity mediated by cetuximab against lung cancer cell lines

(肺癌細胞株におけるセツキシマブを介した抗体依存的細胞傷害活性の検討)

(著者：倉井 淳、千酌浩樹、橋本 潔、山口耕介、山崎 章、迫 隆紀、唐下泰一、牧野晴彦、高田美也子、宮田昌典、中本成紀、鰐岡直人、清水英治)

平成19年 Clinical Cancer Research 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肺癌細胞株に対する、セツキシマブの作用機序の一つと考えられるADCC活性について、その発現量と細胞障害性の検討、インターロイキン2処理による細胞障害性への影響、化学療法の細胞障害活性に与える影響を検討したものである。その結果、EGFR発現量とADCC活性の間には対数関係が認められた。また、インターロイキン2で末梢血単核球を培養処理することで、ADCC活性が増強することが確認され、主にNK細胞の活性化によることが明らかとなった。肺癌患者に対する化学療法施行により、化学療法の影響をADCC活性はNK活性よりも受けにくいことが確認された。本論文の内容は、セツキシマブに誘導されるADCC活性の特徴を明らかにしたものであり、抗癌剤あるいはインターロイキン2とセツキシマブの併用療法において重要な知見を提供しており、明らかに学術水準を高めたものと認める。